

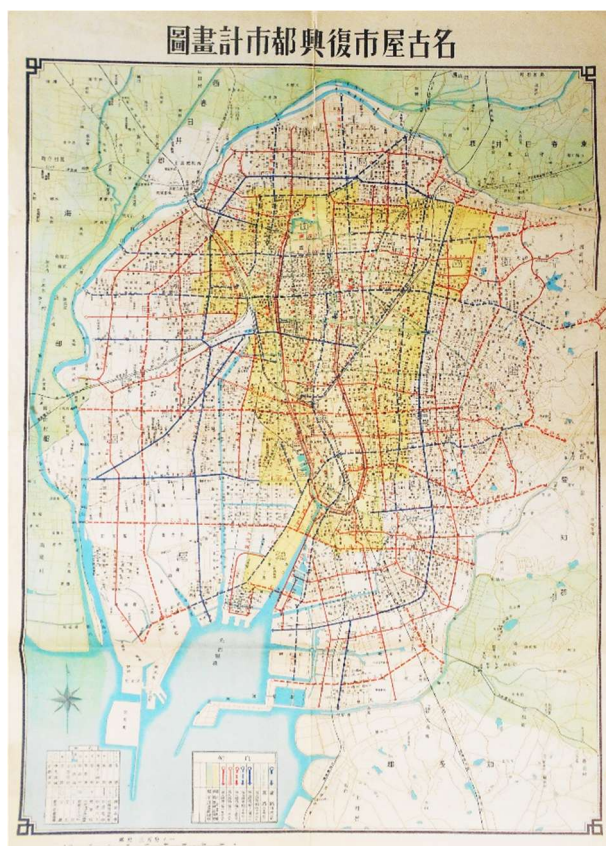
【主な展示資料】

1 名古屋汎太平洋平和博覧会絵葉書



昭和 12（1937）年に開催された名古屋汎太平洋平和博覧会は、国内・国外から多くの国や道府県が参加し、入場者数も 450 万人を超えるなど、当時としては最大規模の国際博覧会でした。博覧会開催に向け、交通網の整備やホテルの建設など、博覧会は名古屋が都市として大きく発展する契機となった一大イベントでした。

2 名古屋市復興都市計画図



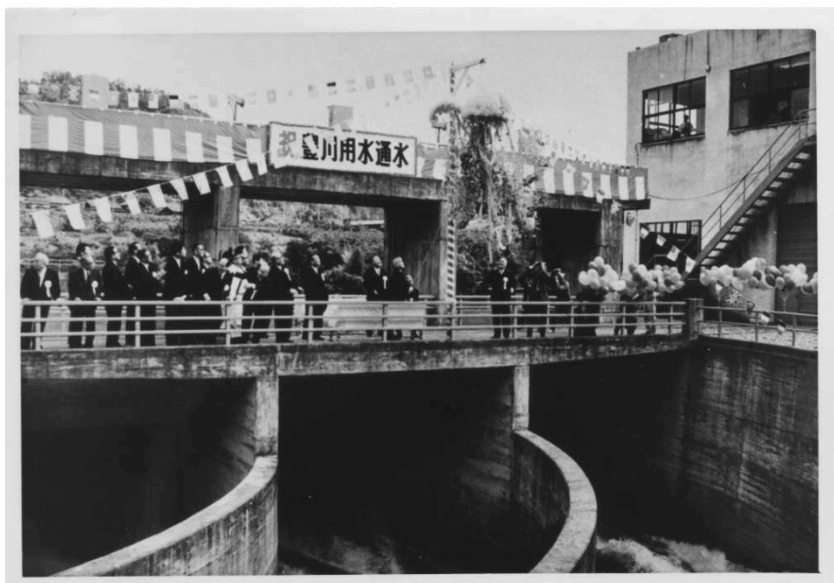
アジア太平洋戦争では、県内でも名古屋をはじめ多くの都市が空襲により大きな被害を受けました。

終戦後には、被害の大きかった自治体において焦土からの復興計画が作られるようになります。特に名古屋市では、国の基本方針が示されるより前に計画が固められ、迅速に事業が進められました。

写真は名古屋市の復興都市計画図です。

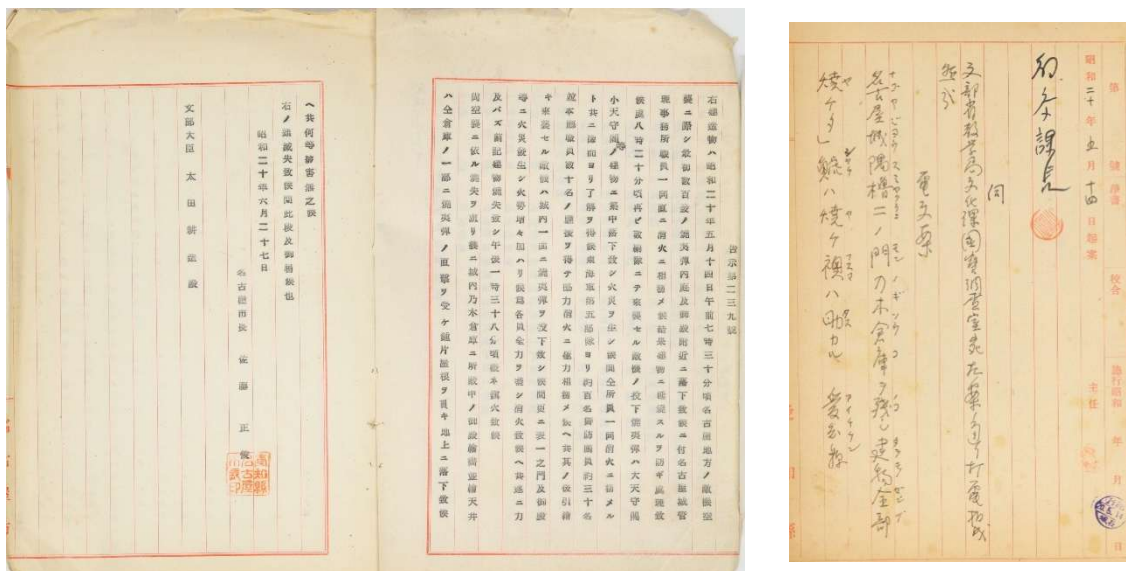
現在、日本で 3 本しかない 100 メートル道路のうち、2 本が名古屋市にあります。これらの道路はこの計画に基づき整備が進められたものです。

3 豊川用水の完成



豊川用水は、大きな河川がなく農業用水を溜池に頼っていた東三河南部地域に水を引き、農業振興を図ることを目的として計画・建設されました。写真は昭和 43（1968）年に全面通水した時の祝典のものです。現在の渥美半島のメロンや電照菊といった特産品は、豊川用水の完成によってもたらされたものといえます。

4 名古屋城焼失の記録



企画展では、江戸時代に築城された名古屋城について、明治維新を経て昭和の時代に入った以降の文化財としての変遷を取り上げます。戦前、名古屋城は国宝として指定されていましたが、昭和 20（1945）年 5 月 14 日の空襲で天守や本丸御殿は焼失しました。写真は名古屋城が焼失した当日、その旨の第一報を伝える文部省あての電報の文案（右）と同年 6 月に文部大臣に提出された国宝滅失届（左）で、当時の緊迫感が伝わる文書です。